

平成26年度病虫害防除所職員等中央研修の開催

農林水産省消費・安全局は、都道府県病虫害防除所職員等の病虫害防除に係る知識の習得を図るため、毎年中央研修を開催している。平成26年度は、12月9日～12日の4日間、横浜第2合同庁舎及び植物防疫所研修センターにおいて、29府県の病虫害防除所等職員及び全国5ヶ所の植物防疫所から計39名が参加して実施された。

研修では、植物防疫課職員により、植物防疫行政及び重要病虫害発生時対応基本指針について、農産安全管理課職員により、農薬行政について、さらに外部講師により、病害の薬剤抵抗性とその対策、警報・注意報発表時の対応事例についての講義が行われた。また、植物防疫所は、侵入警戒調査対象病虫害等の同定に関する講義及び実習、ウイルス病・細菌病・糸状菌病についての講義、糸状菌の同定実習を行った。実習では、ミバエ等の害虫標本、培養した糸状



糸状菌の同定実習の様子

菌などの実物を用いての検鏡等を実施し、現場での業務を想定した実践的なプログラムとなった。研修生からは、実務で生かせる同定方法を学べて参考となった等の感想が寄せられた。

本研修の成果が、今後の病虫害防除所の業務に生かされることを期待したい。

海外のニュース

イスラエルでモモミバエが発生

モモミバエ (*Bactrocera zonata*) はミカンコミバエ種群やクインスランドミバエ、ウリミバエと同じ *Bactrocera* 属のミバエであるが、2014年、イスラエルの首都テルアビブにおいて、民家の庭や公共区域に設置されたトラップで本種が捕獲された。イスラエルでは2001年にも本種の発生が報告されたが、その際は根絶に成功している。

本種は日本未発生で、もともとの生息地域は南アジアや東南アジアだが、サウジアラビア、オマーン、イエメン等の中東地域、アフリカでは北部のエジプト及びリビア、インド洋上のモーリシャス及びレユニオンにも分布を拡大し、2012年にはスーダンでも発見されている。

我が国は本種を検疫有害動物及び侵入警戒調査の対象に指定して、その侵入を警戒している。

本種は広食性で、寄主植物として、モモ、グアバ、マンゴウ、アンズ、カンキツ類、イチジク、ビワ、リンゴ、トマト、ナスなどが記録されている。

成虫は一般的なミバエ類同様、果実中に卵を産み、ふ化した幼虫が果実内部を食害する。幼虫は老熟すると果実から脱出して土中で蛹になる。越冬態は蛹である。成虫は寄主植物を探して長距離を移動することもあり、40kmを移動し

た例も報告されている。また、雄成虫はメチルオイゲノールに誘引される。

本種は寄主範囲等の生態的な特性がミカンコミバエと似通っており、両種が分布する地域では、しばしば混合寄生した果実も観察されるが、地域により優占種が異なるとされている。また、エジプトの果樹園では、本種のまん延により、もともと生息していたチチュウカイミバエの発生が限定的になっていると考えられている。

本種が発生したイスラエルでは、これ以上のまん延を防ぐため、メチルオイゲノールと殺虫剤を吸着させた資材の配置、大量誘殺を目的としたトラップの設置、殺虫剤の散布、発生地近辺の果樹園における綿密な監視からなる公的防除が実施されている。

参考文献

EPPO (2014) Outbreak of *Bactrocera zonata* in Israel.
EPPO Reporting Service. 2014-066

発行所 横浜植物防疫所

発行人 小野 仁

編集責任者 塚本 貴敬

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>